

令和4年度大規模事業評価の実施状況（事後評価）

令和4年8月23日
岩手県政策企画部

1 評価の目的

大規模事業の事後評価は、事業完了後一定期間を経過した時点において、事業の効果や環境への影響等について検証し、その結果を今後の同種事業の進め方や評価手法の見直し等に反映するとともに、必要に応じて適切な改善措置の検討に資することを目的としています。

このたび、令和4年度大規模事業の事後評価結果を取りまとめましたので、政策等の評価に関する条例（平成15年岩手県条例第60号）第5条第2項の規定に基づき、実施状況を報告するものです。

2 評価の対象

県土整備部が所管する大規模公共事業について、事業完了後一定期間を経過したものを対象として評価を行いました。

評価の対象となる事業及び評価実施事業数は、次のとおりです。

事業の種類	評価の対象となる事業	評価実施事業数
道路事業	事業完了後概ね3年目となる事業	1事業

3 評価の実施時期

令和4年8月

4 評価の方法

「事業の効果等」、「利用者等の意見」及び「社会経済情勢等の変化」の3つの項目について評価を行い、今後の課題等（当該地区の改善措置の必要性、今後の同種事業のあり方及び事業評価手法の見直しの必要性）を取りまとめました。

5 評価の実施状況

所管部局	事業名	市町村名
県土整備部	地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型） 国道106号 宮古西道路	宮古市

6 評価調書等

別紙のとおりです。

7 その他

事後評価実施結果については、8月24日（水）に開催される岩手県大規模事業評価専門委員会（公開）に報告する予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

- 大規模事業評価の制度全般について： 政策企画部政策企画課評価担当（電話 019-629-5181）
- 大規模事業評価内容等について： 県土整備部建設技術振興課（電話 019-629-5951）

大規模事業事後評価調書

令和4年8月

岩 手 県

令和4年度大規模事業事後評価調書 目次

県土整備部

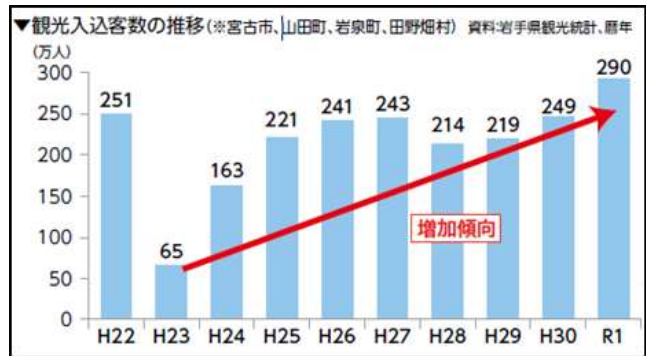
番号	課名	事業名	地区名	ページ
1	道路建設課	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)	国道106号 宮古西道路 (宮古市)	1-7

事業名	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)		補助 単独	担当部課名	県土整備部 道路建設課																	
路線名等	一般国道106号	地区名	みやこにどうろ 宮古西道路		市町村	宮古市																
[事業根拠法令等：道路法第12条、第50条]																						
事業概要	<p>(1) 事業目的</p> <p>○路線の位置付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国道106号は、宮古市を起点とし盛岡市に至る内陸部と沿岸部を結ぶ重要な幹線道路であり、「岩手県地域防災計画」において「緊急輸送道路」に指定されているとともに、地域高規格道路(※)「宮古盛岡横断道路」の計画区間に指定されている。 ・ 東日本大震災津波では、避難路や物資の輸送路としての役割を担ったところであり、岩手県東日本大震災津波復興実施計画において復興道路にも位置づけている重要路線である。 <p>※地域高規格道路：高規格幹線道路と一体的に機能し、地域において広域的な交流・連携を支える幹線道路ネットワークを構成する骨格的な道路。</p> <p>○整備前の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮古市内における交通渋滞が日常化しているとともに、冠水による通行規制区間があるなど、安全で円滑な交通の支障となっていた。 <p>○整備によって得られる効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮古盛岡横断道路及び三陸沿岸道路と一体なった自動車専用道路の整備により、宮古市内の交通渋滞が緩和されるとともに、冠水による通行規制区間の迂回ルートの確保が図られるため、通行車両の安全性・快適性が向上する。 																					
	<p>(2) 事業内容</p> <p>全体計画延長：3,400m 車道幅員：7.0m (12.0～13.5) m</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2">一般部延長</td> <td>2,514m</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">構造物部 延長</td> <td>松山トンネル</td> <td>73m</td> </tr> <tr> <td>田鎖トンネル</td> <td>326m</td> </tr> <tr> <td>宮古田鎖橋</td> <td>56m</td> </tr> <tr> <td>宮古西大橋</td> <td>431m</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>3,400m</td> </tr> </table>							一般部延長		2,514m	構造物部 延長	松山トンネル	73m	田鎖トンネル	326m	宮古田鎖橋	56m	宮古西大橋	431m	合計		3,400m
	一般部延長		2,514m																			
	構造物部 延長	松山トンネル	73m																			
田鎖トンネル		326m																				
宮古田鎖橋		56m																				
宮古西大橋		431m																				
合計		3,400m																				
<p>(3) 整備目標等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通渋滞の緩和、冠水による通行規制区間の解消 ・ バイパスの新設：L=3,400m 																						
<p>(4) これまでの評価経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2002年(H14)：事前評価 ・ 2003年(H15)：国庫補助事業により事業着手。 ・ 2011年(H23)：再評価(評価委員会の意見「事業継続」) ・ 2016年(H28)：再々評価(再評価から5年が経過したもの。評価委員会の意見「事業継続」) ・ 2017年(H29)：随時再評価(トンネルの補助工法が増工となったこと等による事業費の大幅な増額によるもの。評価委員会の意見「事業継続」) ・ 2019年(H31)：宮古西道路の県施工分(L=3,400m)が全線供用開始、事業完了。(H31.3.31) ・ 2021年(R3)：三陸沿岸道路全線供用(R3.12) 																						
事業着手	H15年度	事業期間	H15 H15 H15	H30 H30 H22	最終全体事業期間 前回評価時全体計画期間 当初全体計画期間	用地着手	H16年度	工事着手	H19年度													
事業費	当初計画 総事業費 H15年度 (うち用地費)	前回評価時 総事業費 H29年度 (うち用地費)	最終 総事業費 H30年度 (うち用地費)		財源																	
百万円	13,000.0 (1,028.7)	21,700.0 (1,159.5)	21,852.0 (1,159.5)		[国庫 12,019.0 県単 9,833.0]																	

整備効果の発現状況

○復興道路等と一体となった整備による効果の発現

宮古盛岡横断道路全線の一部として整備をすることにより、救急医療機関への搬送時間の短縮及び観光振興等の整備効果を発現したものの。



○交通渋滞の緩和

国道106号(一般道)と宮古西道路(自動車専用道路)に交通が分散したことにより、国道106号花輪橋交差点付近及び千徳交差点付近における交通渋滞が緩和され、岩手県渋滞対策推進協議会において「花輪橋交差点」及び「千徳交差点」が渋滞ポイントから除外されたもの。

○迂回路としての効果

大雨等で国道106号が冠水して通行規制(令和3年9月15日他6回)となった際に、宮古西道路が迂回路として機能した。



冠水状況(R3.9.15)

○費用便益分析(全線供用による便益計算)

(単位:百万円)

区分		事業着手時 (基準年:H14)	再評価時 (基準年:H28)	再々評価時 (基準年:H29)	事後評価時 (基準年:R4)
費用項目	改築費	11,125.0	17,612.8	21,877.1	27,183.2
	維持費	406.0	873.9	955.2	1,162.1
	総費用(C)	11,531.0	18,486.7	22,832.3	28,345.2
便益項目	時間短縮便益	21,203.0	26,092.0	27,103.0	25,500.0
	走行時間減少便益	1,444.0	4,210.0	4,374.0	1,859.0
	事故減少便益	1,087.0	1,747.0	1,815.0	1,359.0
	3便益 ①	23,734.0	32,049.0	33,292.0	28,718.0
	環境改善便益	-5.0	565.9	587.9	682.7
	拡張便益	4,680.0	2,306.3	2,395.7	3,221.9
	その他便益 ②	4,675.0	2,872.2	2,983.6	3,272.1
	小計 ①+②	28,409.0	34,921.2	36,275.6	31,990.1
修正便益 ③	0.0	21,476.6	22,309.5	20,733.2	
総便益(B) ①+②+③	28,409.0	56,397.8	58,585.1	52,723.3	
費用便益比 B(①+②)/C	2.5	1.9	1.6	1.1	
(参考) 修正費用便益比 B(①+②+③)/C	2.5	3.1	2.6	1.8	

将来交通量 H11,900台/日(H32) 9,100台/日(H32) 9,100台/日(H42) 6,200台/日(R12)

費用便益分析が変化し理由

- ・総費用の変化については、道路護岸や橋台条件護岸の工法変更及び安全対策の追加等により増額(152百万円)並びに基準年の変更(H29→R4)に伴う現在価値化の増加による。
- ・便益の変化については、将来交通量の減少に伴う便益の減少及び拡張便益に関する算出方法の見直しによる増加並びに基準年の変更(H29→R4)に伴う現在価値化の増加による。

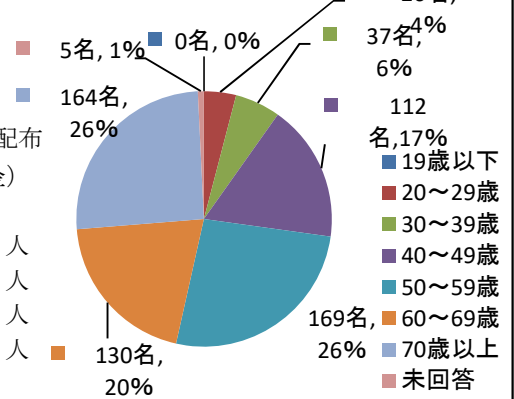
事業の効果を

○利用者アンケート調査内容

- ① 調査対象 : 本事業区間周辺に在住または就業している者
- ② 調査対象者数 : 1,535人
- ③ 抽出及び配布方法
 - 在住者 : 本事業区間（宮古西道路（自動車専用道路））及び国道106号（一般道）を含む一定エリアの周辺住民に配布
 - 就業者 : 宮古西道路及び国道106号の周辺企業に配布
- ④ 調査時期 : 令和4年5月30日（月）～6月17日（金）
- ⑤ 回収結果 : 643人 回収率（41.9%）
- ⑥ 回答者属性（世代別）

19歳以下	0人	20～29歳	26人
30～39歳	37人	40～49歳	112人
50～59歳	169人	60～69歳	130人
70歳以上	164人	未回答	5人

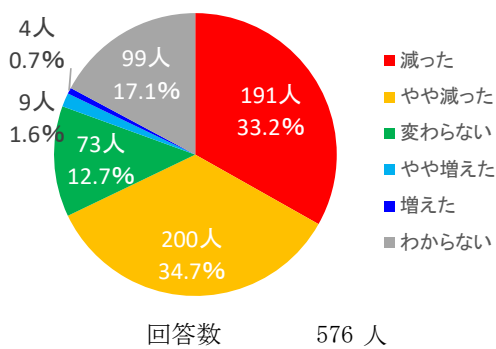
回答者属性(世代別)



○アンケート結果

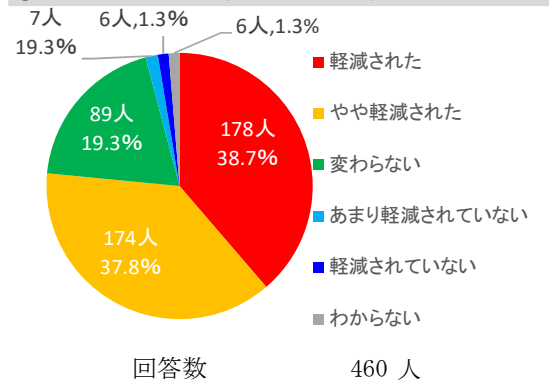
1 事業による交通の変化

① 交通渋滞の発生状況について



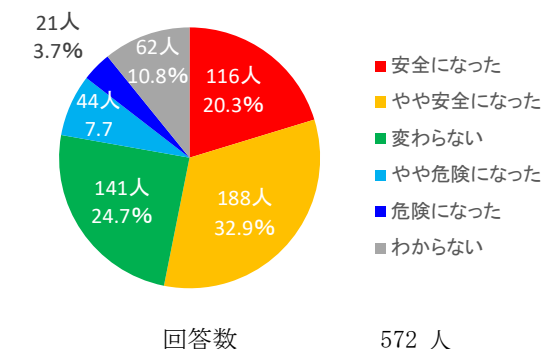
交通渋滞が「減った」または「やや減った」と回答している方が回答者の約7割となった。

② 冠水による通行規制発生の不安について



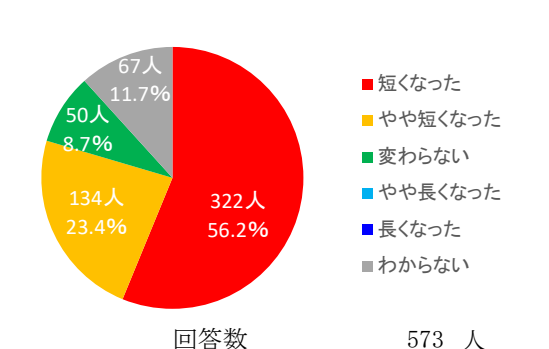
冠水による通行規制の不安が「軽減された」または「やや軽減された」と回答している方が回答者の約8割となった。

③ 通行の安全性について



通行が「安全になった」または「やや安全になった」と回答している方が回答者の約5割となった。

④ 移動時間の短縮について



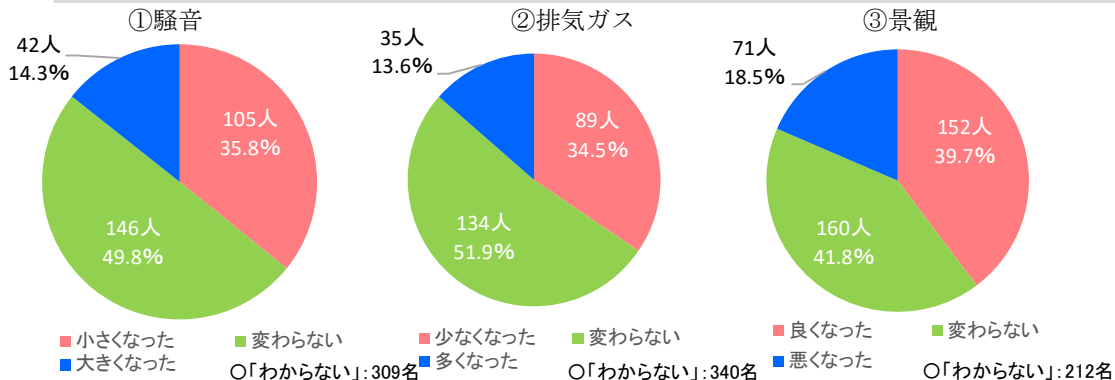
移動時間が「短くなった」または「やや短くなった」と回答している方が回答者の約8割となった。

（総括）事業による交通の変化について全体として良い側の評価と回答した回答者が多かった。

利用者の意見

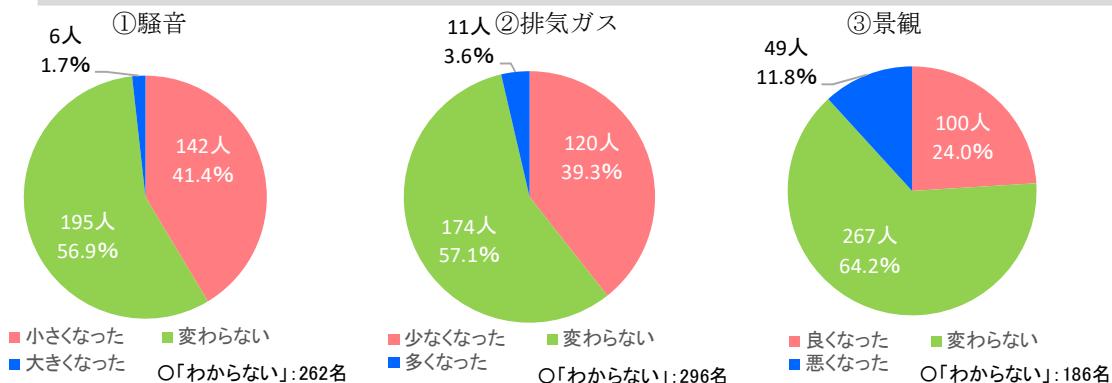
2 事業による環境の変化

(1) 宮古西道路（自動車専用道路）周辺（グラフは「わからない」の回答を除いて作成）



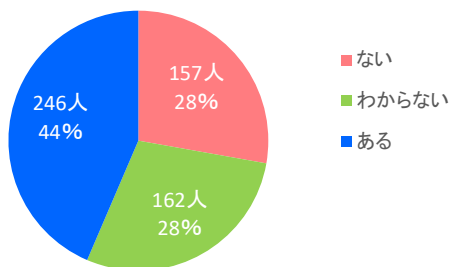
「変わらない」と答えた回答者が約5割であり、「良い側の評価」と答えた回答者が約3割～約4割となった。

(2) 国道106号（一般道）周辺（グラフは「わからない」の回答を除いて作成）



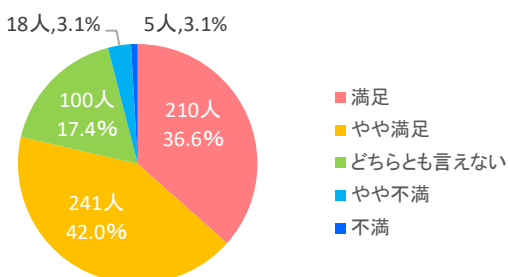
「変わらない」と答えた方が約6割であり、「良い側の評価」と答えた方が約2割～約4割となった。

3 宮古西道路の道路整備事業に関する改善点



回答数 565 人

4 事業全体の満足度



回答数 574 人

・事業全体の満足度について

「満足」または「やや満足」と回答した方が全体の約8割となった。

事業に関する改善点について

本事業に対する更なる改善要望は「ある」と回答した方が回答者の約4割となり、「ない」と回答した方が回答者の約3割となった。

【主な改善内容】

- ① 宮古根市ICと国道106号（一般道）の接続部において、合流時に危険性を感じるため改善してほしい。（127件）
（対応方針）
注意喚起標識の追加などについて今後検討していく。
- ② 舗装の段差を改善してほしい（23件）
（対応方針）
適切に維持管理を行い、舗装段差の改善に努めていく。
- ③ 標識を分かりやすくしてほしい。（16件）
（対応方針）
現地や交通の状況を確認し、改善するよう検討していく。
- ④ 休憩施設を設置してほしい。（10件）
（対応方針）
休憩の際は、最寄りの道の駅をご利用いただきたい。

(1) 事業着手時と事後評価時の社会経済情勢の変化

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波後には、岩手県東日本大震災津波復興計画復興実施計画において災害に強い交通ネットワークの構築として、三陸復興道路整備事業を進めることとしており、当該事業は「復興道路」に位置付け道路整備を行ったものである。
また、当該区間は高規格道路「宮古盛岡横断道路」の一部であり、令和3年12月に全線開通した「三陸沿岸道路」と直結し、高速交通ネットワークを形成している。

(2) 関連する開発プロジェクト等の状況

- ・ 宮古盛岡横断道路 宮古西道路〔国施工区間〕（国土交通省：R2.7.12開通）
- ・ 三陸沿岸道路 宮古道路（国土交通省：H22.3.21開通）、宮古田老道路（国土交通省：R2.7.12開通）等
- ・ 宮古盛岡横断道路 田鎖墓目道路〔国施工区間〕（国土交通省：R2～）

(3) 自然環境等の状況及び環境配慮事項

(動植物、地形・地質、歴史文化、景観等の状況及び岩手県自然環境保全指針による保全区分)

- ・ 岩手県自然環境保護指針による環境保全区分：「B,D」
- ・ 希少野生動植物の有無：有り
- ・ 埋蔵文化財：有り

(事業実施において環境に配慮した事項)

専門家からの指導と助言を得ながら、環境調査を行うとともに、環境等への影響が極力少なくなるよう配慮しながら事業を進めた。

【希少野生植物】

施工区域内の希少野生植物を生育に適した場所に移植。

【猛禽類】

モニタリング調査を実施し、必要に応じて工事の段階的拡大等を行いながら施工した。

【希少動物】

侵入防止柵の設置、移動路の確保を行い、動物侵入の防止対策を講じた。

【埋蔵文化財】

岩手県教育委員会との協議並びに必要な区間について試掘及び本掘調査を行い事業を実施した。

(事業完了後の環境の変化)

【希少野生植物】

移植先における生育を確認済み。

【猛禽類】

工事前から工事後においてモニタリング調査を実施し、繁殖を確認済み。

【希少動物】

開通から令和4年6月までに希少動物との接触事故無し。

(事業名)		地域連携道路整備事業（ネットワーク形成型）				評価の概要					
事業の概要						事業効果等の検証等			改善措置の必要性	事業計画・調査のあり方の見直し	評価手法の見直し
着手年度	完了年度	当初事業費 (百万円)	完成時事業費 (百万円)	再評価 H28年度	再々評価 H29年度	事業の効果等	利用者等の意見	社会経済情勢等の変化			
H15	H30	13,000.0	21,852.0	17,700.0	21,700.0	発現している	肯定的な意見が多い	重大な変化あり(※)	一部あり	なし	なし

(※東日本大震災後に復興道路への位置付け)

(1) 当該地区についての総括的なコメント及び改善措置の必要性

①総括的なコメント

本事業は、宮古市内の国道106号の交通渋滞の緩和、冠水による通行規制区間の解消することを目的としたものであり、整備前と比較して、計画交通量の減少はあるが交通渋滞の緩和や災害時の代替性が確保されるなどの効果が得られている。

また、令和4年5月～6月に実施したアンケートによると、事業全体の整備に対する満足度も高いことから、事業の目的を概ね達成しているものと考えられる。

②改善措置の必要性

宮古西道路と一般国道106号の合流時の危険性に関する改善や舗装の段差に関する改善などの意見が多数寄せられていることから、アンケートの結果を踏まえ必要な対策を検討するとともに、今後の道路整備や維持管理の参考としていきたい。

(2) 今後の同種の事業計画・調査のあり方や事業評価の見直しの必要性

①今後の同種の事業計画・調査のあり方

同種事業については、本事業と同様に走行時間の短縮等の一般的な整備効果に加えて、想定される地域特有の課題解消や整備効果等の把握に努めていく。

②事業評価の見直しの必要性

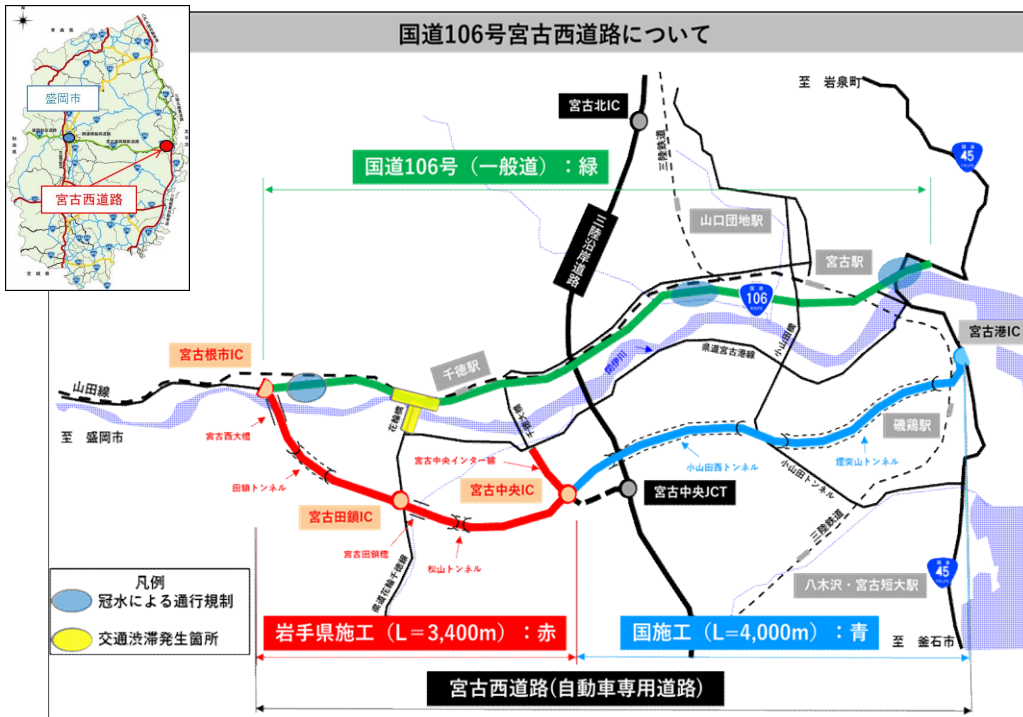
評価手法の問題点が抽出されなかったことから、見直しの必要性はないと考えている。

事業名	地域連携道路整備事業 (ネットワーク形成型)	補助	単独	担当部課名	県土整備部 道路建設課
路線名等	一般国道106号	地区名	みやこにしどうろ 宮古西道路	市町村	宮古市

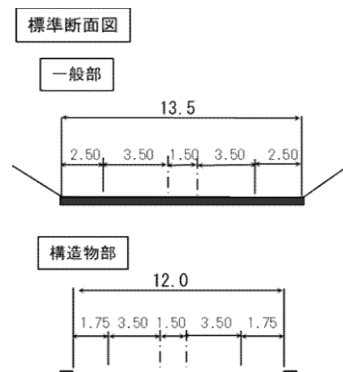
○事業概要

- 平成6年12月 地域高規格道路「宮古盛岡横断道路」が、計画路線に指定。
- 平成11年12月 「宮古盛岡横断道路」の一部を構成する「宮古西道路」が、整備区間に指定。
- 平成12年度 着工準備期間として調査着手。
- 平成15年度 国庫補助事業により事業着手。
- 平成21年度 三陸沿岸道路宮古道路とあわせ「宮古中央インター線」が供用済み。(平成22年3月21日)
- 平成30年度 全線 (L=3,400m) 供用。(平成31年3月30日)
- 令和2年度 宮古西道路の国施工分 (L=4,000m) が全線供用開始(R2.7.12)
- 令和3年度 三陸沿岸道路全線供用 (R3.12)

○事業概要図



計画幅員	一般部	7.0(13.5)m	
	構造物部	松山トンネル	7.0(12.0)m
		田鎖トンネル	
		宮古西大橋	
	宮古田鎖橋	7.0 (16.27~17.00)m	
設計速度		80km/h	
事業期間		H15~H30	
全体事業費		約218億円	



花輪橋交差点付近



整備前 (交通渋滞発生状況 : H23.7月撮影)

花輪橋交差点付近



整備後 (交通渋滞緩和状況 : R4.6月撮影)